

新年のご挨拶

応援します、作州地域とお客様の幸福を！



津山信用金庫 理事長 松岡 裕司

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、春先の消費増税、その後の消費支出反動減や涼夏等による個人消費の低迷、さらには消費増税先送り決定などを受け、解散実施された12月の衆議院議員総選挙により第3次安倍内閣が発足致しました。これにより、向こう4年間に亘り安定的な政権運営が期待され、財政、金融・為替面に加え原油安のトリプルメリットの中、アベノミクス第3の矢の主要施策である「地方創生」に地域金融機関としては大いに期待しています。しかしながら、財政再建が待たなしの中、もはや中央に頼る時代は過ぎ去り、私たち自身が地域特性を鑑みながら成長の主役を地域に取り戻す正念場の年であると思えます。

さて、当金庫のある作州地域では、少子高齢化、働く世代の人口減少、若者の都市部への流出、事業先数の減少と言う地方の共通課題の真只中にあり、地元信用金庫としては、雇用を生み出すための創業支援や事業規模拡大に向けた各種サポート、さらには故郷に住む人たちが地域に誇りを感じ愛着が持てる地域創りへの参画を積極的に行っていかなければならないと思っています。

現在当金庫では、地域発展がこれまで緩慢であったことへの自責の念から「作州地域の活性化応援信用金庫」として、信用金庫の原点回帰に全役職員が努めています。例えば、なでしこ女子サッカーチーム岡山湯郷ベルがある美作市においては、昨夏から信金中金の助力を受けながら、美作市観光活性化プロジェクトをスタートさせ、その中心となる地域資源・湯郷温泉への観光客数増加に向けた諸施策を6月には取り纏め地域振興の足がかりに致します。地域の中心津山市では地場産業の活性化に向けた産業支援センター等各種行政組織に地元金融機関を代表して参画し、また里山資本主義のモデル地区として全国最先端を走る地域創生の街・真庭市においても、行政・民間組織との密接な関係作りを奔走しています。岡山県北は津山洋学として幕末以降数多くの医学者等を排出する地域DNAを持ち合わせており、当金庫は当地の大学や高専とも連携協定を結びながら、当金庫が産学官民のコーディネーター役に徹し、当地域を従前の横並び主義から脱皮し先見性ある経営者企業を重点的に応援していく「エコノミック・ガーデニング作州」に変身させていく態勢を整えて行きます。

地域やお客様の悩みは私共が信頼に足る相手でなければお話頂けません。本年も、ただひたすら信用金庫の原点である地域発展、お客さまの幸福を実現していく金融機関を目指します。金融面のお手伝いは、その過程・結果であるものと考えています。そして、地域の皆さまが地域に誇りを持ち当地域に住み続けたいと思って頂くため、当地から都市部に移り住んでいる多種多様な能力をお持ちの郷土出身者に帰って頂く、或いは色んな手助けをして頂くことも側面から推進していきます。その第一歩として、当金庫役職員は、郷土の魅力発信のため、2月実施の「美作の国つやま検定」に全役職員が挑戦致します。隼より始めよ！ 今年も「つしん」を見ていてください！

末筆で恐縮です。本年の皆さま方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



作州地域の活性化応援信用金庫
作州地域のパートナー・よろず相談信用金庫



津山信用金庫

